

あーち通信 2005年10月号（創刊号）

神戸大学大学院総合人間科学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センター
（HCセンター・サテライト施設「のびやかスペースあーち」事務局）

〒657-0015 神戸市灘区鶴甲3-11

TEL 078-803-7972 / 7973 FAX 078-803-7971

e-mail: zda@kobe-u.ac.jp, itoa@kobe-u.ac.jp

特集 「あーち」の創設にあたって(1)

「あーち」での子育て支援をどう考えるか

2005年9月、神戸大学のサテライト施設として、「のびやかスペースあーち」がオープンしました。「あーち」は、大学と地域とが力を合わせて、子育て支援をきっかけにして共生のまちづくりをめざそうとする施設です。

「あーち通信」では、「あーち」をめぐるさまざまな動きをお知らせするとともに、「あーち」が取り組もうとする公共的な課題について、自由な議論を展開していくきっかけをつくろうと考えています。創刊号では、子育て支援のあり方や考え方について、「あーち」創設を担当してきた神戸大学教員2名が課題提起をします。

「あーち」で目指す子育て支援

伊藤 篤（神戸大学HCセンター、子ども・家庭支援部門）

社会全体で家庭の子育てを支援する必要性が、いろいろなところで指摘されるようになってきました。また、いま子育てをしている人々に対してだけではなく、将来の子育てをになう次世代の人々に対する準備的な支援もあちらこちらで始まっています。

ところで、社会全体とは一体だれを指すのでしょうか。行政でしょうか。さまざまな機関や施設でしょうか。地域の団体でしょうか。おそらく、それぞれがこれまで単独でおこなってきた支援だけでは十分な効果がみられなかったので、ネットワークを組んで連携する必要がでてきたのです。社会全体とは連携体であると考えます。

「この連携体に参画するぞ！」と神戸大学も名乗りをあげました。それが「あーち」の子育て支援です。連携は、参画するそれぞれの主体がもつ資源や能力を協同的・有機的につなぐことでうまく機能します。また、連携することによって、それぞれの主体がおこなう活動の質が高まることも期待されます。

大学が特徴的にもつ資源と能力は「知」を提供できる教員と「知」を探究する学生です。両者が一体となって、さまざまな立場の主体の参画をうながし、子どもと家庭を支援するための

連携体を構成していく。そして、それに寄与する。これが「あーち」の子育て支援です。

では、具体的に何をするのでしょうか。目指しているのは「ファミリーリソースセンター」です。「あーち」に來れば、子育てや子どもの育ちに必要な情報やサービスが受けられる場を実現したいと考えています。もちろん、「あーち」で提供できないものもあります。そんなときは、連携体のどこかにアクセスできるよう仲介します。

サービスの基本はドロップインです。気軽にいつでも好きなときに好きなだけ立ち寄ることのできる「安心の場」「仲間と交流できる場」です。できる限り多くの親子に利用してもらい、ここがゲートウェイになって、利用者の方々が次の段階のサービスを選択できるようなシステムをつくっていくつもりです。相談やカウンセリング、出産・子育ての準備支援、保育と就労の支援などを考えています。

利用者の方々が自分たちで新しいサービスを創り実践していくのをサポートすることも「あーち」の大きな目標です。不要品のバザー開催がすでに数人のお母さんによって計画されています。また、次世代に対する支援もおこないたい

いと考えています。小学生や中学生を対象とした体験的学びである「あかちゃんとのふれあい」が「あーち」で最初にはじまる次世代育成を目指したサービスとなるでしょう。

いま述べたような多様なサービスは、行政、

諸機関や諸施設の人々、地域の人々の力がなければ実現しません。学生の力も必要です。「あーち」の子育て支援に共鳴していただける方々の心強いサポートを心よりお願いいたします。

子育て支援を通して、みんな元気になろう

津田英二（神戸大学H C センター、障害共生支援部門）

ストレス時代の親子

現代の子どもたちは、とても忙しいそうです。サラリーマン並みのストレスを抱えている子どもさえいるそうで、気の毒な話です。そのくせ、おおぜいの仲間と遊ぶという経験が乏しく、人間関係づくりが苦手になり、社会にうまく適応できないという子どもや青年が多くなってきているというのは、皮肉なことです。

親は親でたいへんです。昔に比べると、家電の普及や外食産業の発展に加えて、一世帯における子どもの数が減ったのだから、本来ならばうんと余裕を持って生活ができるようになってよいはずですが。けれども、実際にはおとなも子どもも経済中心の競争社会に巻き込まれる度合いが増したことで、しんどい目にあっている人が多いようです。

子どもがしんどいのは、おとながしんどいからなのかもしれません。おとなが経験している社会は確かにしんどいものです。勝ち組と負け組に色分けされて、格差がどんどん広がってきているといわれます。ある親は、そんな社会の中で我が子が勝ち組になるように、一生懸命になります。それが親の子どもに対する愛の一種であることは間違いありません。親の愛によって、子どもはしんどい社会の中に放り込まれるのです。また他方で、自分のことで疲れ果て、子育てどころではないという親もいるかもしれません。

だれもが急いで走り回っている現在、子育ても大急ぎになっています。周りが急ぎすぎると、子どものやる気は削がれます。親の愛が子どもの自発性を殺してしまうことって、本当にあるようです。あわてずに、子どもが自ら動くのをじっと待つことも、子育ての重要な一側面です。それができにくいのは、4歳の娘を持つ私も、実は同じなのですが……。

人と人がつながることの重要性

けれども、冷静になって周りを見渡してみると、競争原理だけが社会をつくっているわけではないことに気が付きます。地域社会には、人とのつながりをとても大切にしながら、おおらかに余裕をもって生活をしている人たちもたくさんいます。経済的な

価値では計ることのできない夢を糧に、素敵な生き方をしている人たちもいます。今の社会が向かっている方向を心から心配している人たちもいます。自分の利害はさておき、自発的に子育て支援に関わろうとされる人の多くは、こういう素敵な人たちです。

こうした地域社会の魅力を生かしていくことが、現在の子育て支援に欠かせない要素ではないでしょうか。子どもばかりでなく、しんどい目にあっているお父さんやお母さんも、価値観や生き方の違ういろいろな人たちと出会うことによって、元気をもらいましょう。急かされることのない人間関係の中で、子どもの内面からあふれ出てくる力に出会いましょう。「あーち」でめざしたいのは、そういう子育て支援です。

社会の責任でもある子育て

私自身は、社会教育という領域の研究に携わってきました。社会教育研究の伝統をふりかえると、いつも個人の発達と、集団や地域や社会の発展とのバランスが問題になってきました。個人の発達と社会の発展とは相互に関連があります。つまり、個人の発達のあり方が、社会の発展の方向性を決定しているという一面があります。つまり、子どもの発達は親の責任であるとともに社会の責任なのです。「うちの子のことは放っておいて」と主張する親は、一面では正しいのですが、全面的に正しいわけではありません。親が責任をもつのは当然ですが、社会全体の責任のもとで親が責任をもっているのです。

障害のある子どもと親との関係に関わる議論に、「社会が親に子育てを押しつけているのではないか」という意見があります。障害のある子どもの子育てでは、還暦を迎える子どもを卒寿の親がケアするという状況もあります。これも子育てです。子離れ、親離れも子育ての課題です。

このように子育てにもっと社会が責任をもつべきなのです。今のような世の中なので、社会の子育てへの関わり方は決して単純ではありません。「あーち」の使命のひとつは、そうした関わり方の実験場になることなのかもしれません。

「あーち」オープニングセレモニー

9月3日(土)、灘区民ホールと「あーち」において、「あーち」のオープニングセレモニーが開催されました。午前中は灘区民ホールで、稗田小学校と成徳小学校の子どもたちや保護者などによる和太鼓演奏に始まり、長峰中学校吹奏楽部の演奏、神戸大学サークルの「モダンドンチキ」によるチンドン芸、「たんぼぼ作業所」によるアフリカンドラムの演奏、「フェミナクラブ」による環境プログラム、神戸市助役と神戸大学理事による祝辞など、多彩なプログラムが展開しました。

午後は「あーち」で、「華」「おはなしの国」による人形劇、音楽会、神戸大学発達科学部鈴木幹雄先生と学生によるアクションペインティング、神戸大学発達科学部の高橋真先生によるコンピュータリテラシープログラム、「マーガレットの会」による読み聞かせ、神戸大学サークル「どうけん」の児童劇、「ぶちばんそー」による缶バッジ制作、絵画や氷柱アートの展示といったプログラムが行われました。大学の教員や学生ばかりでなく、地域の方々が自発的に企画を展開してくださり、とても充実した楽しいセレモニーになりました。

ご協力頂いた個人や団体のみなさまに、この場を借りて篤くお礼申し上げます。

「あーち」での、いろいろなプログラム(9月～10月)

メダカ親子クラブ いろいろな遊びをしながら楽しく学びます。対象は主に小学生。リーダーは、学校の先生や、先生の経験者です。

らくがきおばさんがやってくる 自分の中から湧き出てくる表現を大切にしながら、色や形で遊びます。3歳以上のお子さんが対象。リーダーはらくがきおばさん(能勢さん)です。

自由に楽しむ絵の世界 いろいろな方法で絵を描いてみましょう。絵を描くのがもっともっと楽しくなりますよ。リーダーは前田さんです。どなたでもどうぞ。

音楽の広場 いろいろな人たちが集まって、音楽を通して仲良くなりましょう。みんなで合奏したり、きれいな音楽を聴いたり、楽しい時間を。スタッフ陣も豊富です。どなたでも。

お話の国 お話を聞きながら、ゆったりとした時間を過ごしましょう。おとなもいっしょに、贅沢な時間をどうぞ。リーダーは、マーガレットの会のみなさんです。どなたでもご参加下さい。

折り紙 折り紙名人に来ていただいています。昔ながらの折り紙の定番から、新しい創作折り紙まで、みんなでワイワイ言いながら折ります。リーダーは、井上さんと杉本さんです。どなたでも。

人形遊び 人形を遊びながら、みんな仲良くなりましょう。人形になりきってみましょう。いろいろな楽しいお話しも飛び出すかも……。リーダーは、中井さんです。どなたでもどうぞ。

立体の紙工作 おもしろい形や色の、みなさんだけのお面をつくってみましょう。10月は動くお面に挑戦です。リーダーは、中さんです。4歳以上のお子さんから大人まで、どうぞ。

環境プログラム 地球を守るヒーローになろう! リーダーは、学生や企業関係の方や学校の先生やボランティアのみなさんです。4歳以上のお子さんから大人まで、どうぞ。

キッズ・サイエンスカフェ 世の中には、不思議なことがいっぱい! その不思議を追いかけている科学者と、楽しいお話をしましょう。リーダーは、伊藤真之先生です。

ほのぼの音ランド ちっちゃいお子さまと保護者のみなさま、いっしょに楽しく音で遊んでみましょう。いつもとは違う子どもの表情に出会えるかも……。リーダーは淵田さんです。

ボットラック 障害のある子どもを対象にした、いろいろな相談やセラピーの場です。リーダーは高田哲(さとし)先生です。

ほっと 発達障害のある子どもを対象にした、学習プログラムです。リーダーは山根さんで、学習支援者といっしょに楽しく学びます。定員制。

心に浮かぶ言葉・ことばの広がり 言葉の芸術ワークショップ。参加者のみなさんと、ことばの広がりを一緒に感じ取り、考えます。リーダーは鈴木幹雄先生。保護者を中心に。親子同伴でもどうぞ。

展示会 自己表現と交流と学びの契機に。

ご寄付のお礼

以下のみなさまからご寄付をいただきました。この場を借りて篤くお礼申し上げます。

株式会社キャリアリンク様(家具等) 佐川急便株式会社様(コンピュータ) 株式会社グランプリ様(ソフトウェア) さゆり児童館様(家具・教材) 松坂秀紀様(寄付金) 大森末弘様(寄付金)

*「あーち」を支援する任意団体「子育てと共生を考える会」が創設されました。寄付金はこちらの会を通して大学に対する寄付となり、大学から「あーち」へ予算配分されます。(口座番号は次号にて)

